

## 広東省で観察されたハイナンミゾゴイ

高育仁<sup>1</sup>・肖榮高<sup>2</sup>・華肖峰<sup>3</sup>

1 華南瀕危動物研究所

2 車八嶺国家級自然保護区

3 広東省林業庁野生動物植物保護ステーション

訳 福井和二

摘要；1,998年6月17日，'99年8月17日，'99年8月26日広東省始興県車八嶺国家級自然保護区域内でハイナンミゾゴイを3回，幼鳥各1羽ずつ取得した。華南瀕危動物研究所では，かつて1960年3月22日に英徳県滑水山において採集された雄成鳥標本1羽があるが，今日なお広東省内に，希少鳥類であるハイナンミゾゴイが生息する明確な実証を得たこととなった。最近数年来，桂南，粵北<sup>1</sup>地区はハイナンミゾゴイが分布しているわずかに残された地域とされている。

ハイナンミゾゴイ (*Gorsachius magnificus*) 別名海南虎斑鵝<sup>ハイナンフバンヅワン</sup> <sup>11</sup> といい，中国固有の鳥類で，分布は中国南部の少数の地域のみである。文献によると安徽省霍山，浙江省天目山，福建省邵武と建陽，広西省瑤山，海南省五指山，尖峰嶺<sup>13</sup> 等大部分が1920～30年代の記録である。北京自然博物館に1963年，海南省白沙県採集の雌の標本，華南瀕危動物研究所に1962年11月20日，海南省楽東県尖峰嶺採集の雄幼鳥1体と，英徳県滑水山(24° 26' N, 114° 33' E)採集の雄成鳥1体の標本，復旦大学に1954年5月1日，浙江省臨安県西天目山採集の雌雄標本があるのみで，この他，何十年間，この鳥の消息はなかった。現在ハイナンミゾゴイは国家Ⅱ級重点保護野生動物に指定され，中国瀕危動物紅皮書(鳥類)と亞洲鳥類紅皮書に集録されている。

1990年6月，1992年10月と1993年1月，周放が広西省南部の隆安県と武鳴県で野外におけるハイナンミゾゴイの行動を3回にわたり観察した報告<sup>15</sup>がある。1998年5月29日，香港嘉道理農場と植物園華南生物多様性調査隊により広西省南寧市場において1羽の幼鳥を発見<sup>16</sup>しており，これが近年希なハイナンミゾゴイの野外からの消息であり，これで，まだ広西省南部に少数のハイナンミゾゴイが留鳥として生息していることが確認された。

1999年1月22～26日，筆者が広東省北部で野生動物調査を行なったとき始興県車八嶺国家級自然保護区の標本室でハイナンミゾゴイ幼鳥1羽の標本を見つけた。これは，1998年6月17日に当地の小鳥商がもっていたもので，捕獲されたのは始興県内の馬市鎮か江口郷(25° 00' N, 114° 10' Eと114° 00' E)の夜間の猟ではないかと言われる。

1999年8月17日，筆者は始興県内の某水産業者から1羽の幼鳥を購入した。これは8月14日夜11時頃，当地の農民が太平鎮の小川で捕獲したものであった。保護区で飼養し，体力が回復後，8月27日保護区内に放鳥した。

8月26日，保護区入口付近(始興県市街より31.5km)で，またもや農民が1羽のハイナンミゾゴイ雄幼鳥を捕獲，27日落鳥のため標本を作製，保護区標本室に所蔵した。

最近40年の間に，広東省中北部においてハイナンミゾゴイが4回，特に最近3回記録された。しかも，出現地点が比較的接近しており(図1)，広東省北部において今日なおハイナンミゾゴイが生息している重要な地域であることを証明している。

ハイナンミゾゴイはきわめて希に見る鳥類で，長年生物研究者の間でも個体数，分布，などの情報が非常に少なく，学問的に貴重な報告といえる。今日の貴重な記録はこの種の衰退を示して

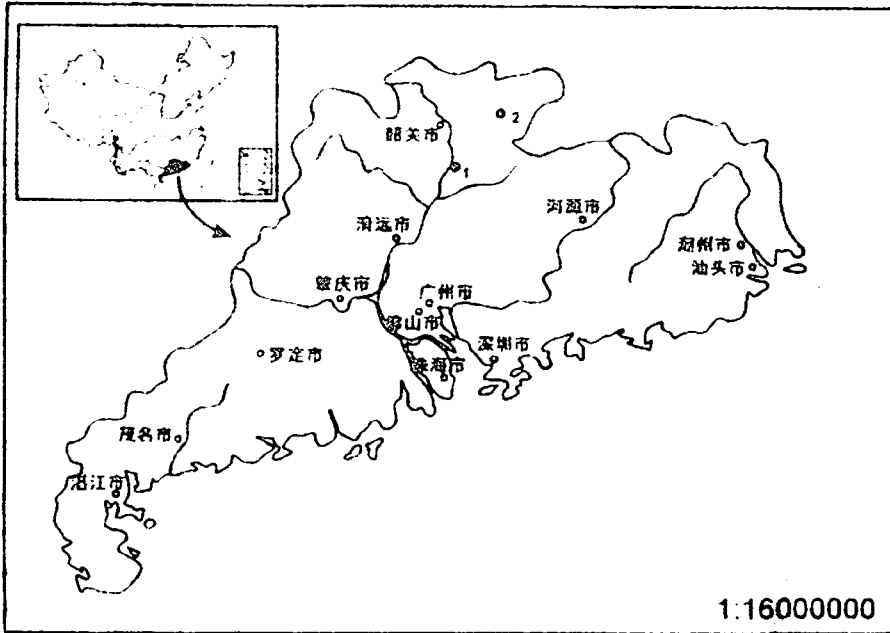


図1 ハイナンミゾゴイの広東省発見地 1. 英徳県 2. 韶興県

おり、生息地森林の衰退<sup>17)</sup>をも反映している。分布状況を歴史的に見ると、その生息地は極端に破壊され分散した。40年来国内の大部分の分布域から再び新しい消息は聞かれなくなった。広東省始興県における幼鳥個体の発見は、広東省にハイナンミゾゴイの生息を証明したことに関わらず、20世紀90年代にハイナンミゾゴイが広西省南部と広東省北部になお、生息しており、その数は非常に少ない数であることを実証した。5、6月ころは幼鳥の羽毛が生えそろう、独立する時期である。

広西、広東、海南三省の人々が、野生動物を捕獲、利用する有様は厳しい状況にあり、広東北部の始興県における2回の発見も商人の手中のもので、1998年の広西省南寧の食べ物市場で発見されたハイナンミゾゴイも買い手を待っていた商品なのである<sup>18)</sup>。希少鳥類であるハイナンミゾゴイの生存に関わる状況は極めて過酷なものである。政府関係者はこの地域を重点的に調査研究する組織を作り、その生息状況の現状を評価し、何にもまして保護対策を立てなければ、かつて失われたと思われた、広西、広東両省に残っていたハイナンミゾゴイは本当に絶滅に追い込まれてしまう。

広東および海南省のハイナンミゾゴイの標本による資料を表1に示す。

表1 ハイナンミゾゴイの標本資料 (単位 g, mm)

採集地	採集日	性別	体重	全長	翼長	尾長	嘴峰	附蹠	標本所在地
広東英徳	1960年 3月22日	♂	750	656	325	137	63	75	華南瀕危動物所
広東始興	1998年 6月18日	幼	473	610	350	128	62	76	車八嶺保護区
広東始興	1999年 8月14日	幼	460.1	612	303	121	59	74	車八嶺保護区
広東始興	1999年 8月26日	幼♂	424.7	614	293	114	59	75	車八嶺保護区
海南尖峰嶺	1962年 11月20日	幼♂		605	288	107	62	76	華南瀕危動物所

訳注 \*1 桂は広西省、粵は広東省の旧称、桂南は広西省の南部、粵北は広東省の北部。